



— 御扉を開き殿内へ献饌(例祭10月15日) —

阿蘇神社 <http://asojinja.jp>

社報 あそみや

平成29年11月1日

第 69 号

発行所

阿蘇神社社務所

多良見町化屋862

☎ 0957-43-5235

忖度としがらみ

宮司 大島大明
阿蘇神社

昨年来、頻繁に聞く言葉に、「忖度」と「しがらみ」があります。

相手の立場・心情に配慮する心、断ち切ることが出来ない対人関係や地域の慣習など、日常生活はまさに忖度としがらみだらけのよう

に思われます。

近年両者とも悪しき言葉として使われているようですが、本当に悪しきことでしょか。しがらみを絶ち、忖度する心を捨ててしまふと、全ての行為が独善的に

神職となつて四十五年。神社と氏子との関係、地域に伝わる慣習など、忖度としがらみを捨てることなど出来ません。忖度の心を持つて、世間のしがらみに対峙することが大切ではと考えます。

敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であつて、崇高なる精神を培い、大平を開くの基である。神慮を畏み祖訓をつけ、いよいよ道の精華を發揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。ここにこの綱領をかけて向ふところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、光明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の降昌と世界の共存共栄とを祈ること

平成二十九年例大祭を斎行!!

去る十月十五日、生憎の悪天候でしたが、多数の参列者のもと恒例の例大祭(ききつくんち)が斎行されました。

定刻宮司以下祭員が参進して所定の座に著いて祭典を開始。修祓の後、御本殿の御扉を開いて神饌と神社本庁及び長崎県神社庁よりの幣帛料と玉串料が神前に供えられました。次に宮司が御神徳を称え、氏子崇敬者の平穏無事と更なる御加護を賜ることを祈念する祝詞を奉上しました。

—宮司の祝詞奉上—

次に巫女が笛太鼓にあわせ神楽舞を奉納、その後宮司・参列者の代表が玉串奉籠を行いました。神饌の撤下後、御扉を閉じ例大祭を終了しました。

祭典終了後には表彰状の伝達式が行われ、伊勢神宮大宮司よりの表彰状が白石幸男氏へ授与されました。多年に亘つての神宮大麻領布に尽力された功績を称えての表彰とされています。

その後全員の記念撮影を実施、引き続き社務所に移動して直会を催し例大祭を祝いました。



—表彰状の伝達式—

今般の例大祭に際し左記の通りご献納を賜りました。ご芳名を記しお札を申し上げます。

（順不同・敬称略）

◇ 声	◆ 玉串料	◆ 初穂料	◆ 币帛料
神社本庁	長崎県神社庁	有森商会 森 誠司、	前山茂大 氏(福井内)
犬塚 勇	八江利春、	慈恵病院	森 久茂 氏(西川内)
岩本 熱	木下政儀、	松本卓郎、	前山茂大 氏(福井内)
森 秀人	森開発	針尾憲一、	森 久茂 氏(西川内)
長 本村	中路 徹、	中路孝之、	前山茂大 氏(福井内)
建装 溝上元治、	高松 悟、	北島守幸、	森 久茂 氏(西川内)
庫多良見支店長	北島勝幸、	森 久茂、	前山茂大 氏(福井内)
吉田仁志	福田泰昭、	内村典秋、	前山茂大 氏(福井内)
	浦嶋政美、	北島勝幸、	前山茂大 氏(福井内)
	十八銀行多良見町支店	森 駿、	前山茂大 氏(福井内)
		内田克夫	前山茂大 氏(福井内)
		小川 晃、	前山茂大 氏(福井内)
		明、川崎 剛、	前山茂大 氏(福井内)
		森溝上	前山茂大 氏(福井内)



—巫女による神楽舞奉納—

◇総代会便り◇

一、定例評議員会の奉告

去る五月二十六日に定例評議員会を開催され、予決算書及び境内改修工事の收支報告書が審議され、原案通り承認されました。平成二十九年度の監事は、以下の両名が選任されました。

前山茂大 氏(福井内)

森 久茂 氏(西川内)

二、総代の異動報告

永年総代会長を務められた前田信太郎氏には、去る七月末日にて退任せられました。八月一日附で総代会の役員が異動することとなりました。

総代会	会長	北島勝幸氏
”	副会長	岩本 熟氏
”	会計	福田泰昭氏

参拝者各位のご高配を賜り、篤志寄付を含め総額四八六、三三三円の净財を賜りました。衷心より厚くお礼を申し上げます。

三、御本社・熊本県阿蘇神社の復興支援募金について

本年元日より七日まで、初詣の皆様に「御本社復興支援」として募金箱を設置いたしました。

参拝者各位のご高配を賜り、篤志寄付を含め総額四八六、三三三円の净財を賜りました。衷心より厚くお礼を申し上げます。

神宮大麻・大祓人形について

今年も神宮大麻・大祓人形・家内安全神札をお届けする時期となりました。氏子の皆様方には評議員様を通じて、頒布等のお願いを致しておりますので例年同様宜しくお願ひ申し上げます。

神宮大麻 初穂料 一体 八〇〇円

神宮大麻とは、伊勢神宮のお神札のことです。神宮にお祀りされております天照皇大神は、日本全国の神社の総祖神として崇敬されております。神宮大麻は伊勢神宮より全國の神社が委託を受けてお届けするものです。ご家族の守護神とし是非、地元氏神である阿蘇神社のお神札とともに神宮大麻をお祀りください。

なお神棚の祀り方で不明なことがありましたら、神社まで遠慮なくお尋ね下さい。

大祓 初穂料 息し召し

一年間に知らず知らずに犯した罪や、心身の穢を祓い清めて清々しい心となり、本来の清浄な姿に立ち返るようになるお祭りです。人形に氏名などを記入し、息を吹きかけて身代わりとして納めます。祭典開始までに神社にお届け下さい。

大祓式は十二月三十一日午後四時に斎行いたします。祭

- ◎ 祝祭日には国旗を掲げてお祝いいたしましょう
- ◎ お正月には新しい御神札おふだを受けて家庭に祀りましょう

◇長寿のお祝い

長寿の祝は「算賀」ともいいます。氏神様に参拝して御加護に感謝し長寿の報告をいたしましよう。

**還暦
六十一歳**

十干十二支の組み合わせで一巡するのが六十年。自分の生まれた干支に戻る祝で、「赤兎に還る」意味から赤を基調として祝います。

**古稀
七十歳**

「人生七十年古来稀なり」という漢詩の一節に由来し、紫(または紺)を祝の色とします。

**喜寿
七十七歳**

「喜」という字の草書体が「七十」に読めることで、この字を当てることになつたといわれます。祝の色は紫(または黄)とされます。

**傘寿
八十歳**

「傘」の俗字が「八十」に読めることから、この字が当てられました。祝の色は金茶を主とし、黄・紫も使われます。

六十歳を「下寿」、八十歳を「中寿」、百歳を「上寿」とすることもあります。祝の色は白です。

**百寿(紀寿)
百歳**

六十歳を「下寿」、八十歳を「中寿」、百歳を「上寿」とすることもあります。祝の色は白です。

**半寿
八十一歳**

目が八十一あることから「盤寿」とも言われます。祝の色は金茶色で金色(または黄)も使われます。また将棋盤のマスとされます。

**米寿
八十八歳**

「八十八」を組み合わせると「米」の字になることから米寿とされました。祝のいろは半寿と同様です。

**卒寿
九十歳**

「卒」の俗字「卒」が九十と読めることに起因するといわれています。祝の色は白とされます。

**白寿
九十九歳**

「百」から「一」を取ると「白」となることから、九十九を白寿ということになりました。祝の色は卒寿と同様の白です。

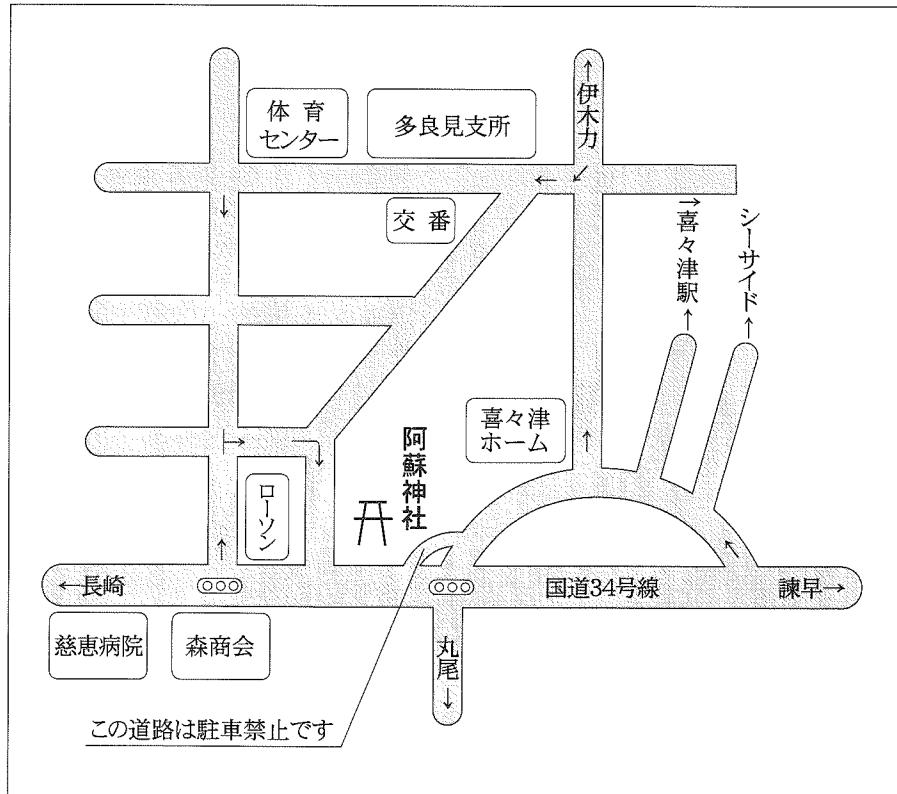
**百寿(紀寿)
百歳**

六十歳を「下寿」、八十歳を「中寿」、百歳を「上寿」とすることもあります。祝の色は白です。

七五三詣は阿蘇神社へ!!

男女三才を『髪置』、男児の五才を『袴着』、女児七才を『帯解』または『紐解』と称し、いずれも子供の健やかな成長を願う行事です。ご家族お揃いでご参拝下さい。

女 男	男女	平成二十九年の七五三祝	数え年
七	三	五	歳
歳	歳	歳	平成
平成	平成	平成	二十七年生
二十三年生			二十五年生



◆編集後記◆

長崎市神浦下中尾町の「大中尾棚田」は、日本の棚田百選の一つです。神社は、日本棚田百選の一です。西彼支部では、斎田として借用し、毎年御田植祭と抜穂祭を実施しています。▼十月三日に支部神職が集つて抜穂祭を斎行しました。収穫した米は新嘗祭への献穀米として管内の全神社へ奉納されます。新米は新嘗祭で神様に供え、人が食するのは新嘗祭の後といいます。御自愛専一にお越し下さい。

◎お知らせ◎

- ◆十一月五日(日曜)、十一日(土曜)、十二日(日曜)、十五日(水曜)、十九日(日曜)の五日間は、七五三の予約は不要
- ☆受付時間 午前十時~午後四時
これ以外の日時にご参拝予定の方は、お手数ながら事前に予約をお願いします。
- ☆駐車場には限りがございます。
乗り合わせてお越し下さい。